

コミュニケーション技術の  
応用的な展開（認知症）

担当講師名

ホッとスペース中原

代表 佐々木 炎

研修領域	実施期日	会 場
ケア領域	令和5年10月28日（土）	沖縄県総合福祉センター西棟4階本会事務局 (zoomミーティング実施)

到達目標

- ①認知症の人が認知症を患いながらも自分らしく生きるように、認知症の人自身のコミュニケーション方法を知り理解できるようになる。
- ②認知症の人の表情、ふるまい、言葉、環境とのかかわりなどから、利用者の身体面・精神面・社会面・スピリチュアル面の状況や変化に気づき、言語化できるとともに、利用者にとってのより望ましい状態の実現にむけてチームで取り組むことができる。
- ③介護福祉士として、適切な知識・技術（非言語コミュニケーション）を身に着け、適切なコミュニケーションをし、利用者自身の自己実現を図れるようになれる。また後輩等に指導できる。

修了時の評価ポイント

- ①自分自身のコミュニケーションの特性を説明し、それが介護場面においてどのように阻害要因になる恐れがあるのか、何に留意すべきかを説明できる。
- ②認知症の人のコミュニケーションの特性を説明し、何を求めているのか「ニーズ」「ニード」に応える支援方法を身に着けることができる。
- ③様々な場面において、利用者が何を求めているか、などについて、多角的に考察した上で、自身の考えについて根拠をもって説明することができ、後輩等にどのように指導・助言するかを説明できる。

テキスト・使用教材等

○DVD

- 「認知症介護基礎研修標準テキスト」
- 「バリデーションへの誘い」（都村尚子著、CLC出版）
- 「認知症のパーソンセンタードケア」（トム・キットウッド著、クリエイツかもがわ出版）

自職場等課題

【事前課題のねらい】

『Aさんの事例を通して』認知症の人のコミュニケーションを考える  
尊厳や倫理を根底として身体拘束を意識し読み解く。

【事前課題の内容】

事前課題の事例を読んで、介護支援のプロセスの提案をして下さい（1200字程度）

【事後課題の内容】

研修の成果をふまえて、『認知症の人のコミュニケーション技術の応用の展開』を意識的に実施した説明報告をしてください。（1200字程度）